

第3回 宇都宮市学校教育推進懇談会 会議録

- 日 時 平成24年2月3日（金） 午後3時00分～午後4時40分
- 会 場 教育委員室（本庁舎13階）
- 出席者
委 員： 木村 寛 会長，長谷川武士 副会長，小野口睦子 委員，板橋英忠 委員，
地神久郎 委員，伊藤三千代 委員，石嶋 勇 委員，長谷川勝比古 委員，
菊地透委員，田中政男 委員，綱川 浄 委員
事 務 局： 教育長，教育監，教育企画課長，教育企画課地域学校園担当主幹，
学校管理課長，学校教育課長，学校健康課長，文化課長，スポーツ振興課長，
教育センター所長，
学校教育課課長補佐，学校教育課係長 ほか
- 傍聴者 なし
- 会議経過
 - 1 開会（学校教育課課長補佐）
 - 2 会長あいさつ
 - 3 議題
 - (1) 説明事項（説明：事務局）
 - ・ 第2回宇都宮市学校教育推進懇談会の主な意見について
 - ・ パブリックコメントの主な意見について
 - (2) 協議事項（説明：事務局）
 - ・ 推進計画【改定版】（案）について
 - 4 その他
 - ・ 到達目標について
 - ・ 平成24年2月17日教育委員会において推進計画の改定審議

<委員からの主な意見・質問等（要旨）>

3 議題(1) 説明事項 第2回宇都宮市学校教育推進懇談会の主な意見について
パブリックコメントの主な意見について

板橋 委員：他市などでは市民に分かるよう数値化の努力をしている。本市では，学力以外の徳などについても数値で示そうと考えているのか。態度の変化なども把握したいところである。

事 務 局：教育すべてが数値化できるものではないと考えるが，本市学習内容定着度調査などにより数値が把握できるものについては示すこととしている。

木村 会長：本市は，市民にも分かるよう数値を盛り込んでいく方向である。

3 議題(2) 協議事項 推進計画【改定版】（案）について

田中 委員：施策の柱3の指標については，食事のマナーや好き嫌いが施策の趣旨に適していると考ええる。また，施策の柱1の学力に関する指標については，特別支援教育の対象となる子どもが通常学級に増える中で，8割を越えることを目指すのは難しいと考える。

板橋 委員：柱の3の指標については，食事のマナーという大きな表現でもよいのではないかと。

事 務 局：柱の3の指標については，食習慣や伝統文化を含めたものとして設定した。

石嶋 委員：おはしの持ち方については，家庭の問題と考えるが，幼稚園では支援している。日本の食文化として継承して欲しいことと考える。

学校健康課長：本市では食育を推進していることから，食事のマナーの手引きを作成・活用し，

- おはしの持ち方を含めた食事のマナーを児童生徒に身に付けて欲しいと考える。
- 伊藤 委員：保護者の立場から、柱の3の指標はシンプルで分かりやすく、広がりがあるものとする。また、今の保護者は、鉛筆の持ち方でさえ指導が難しい状況である。
- 木村 会長：本指標に但し書きがあれば、市民にも指標設定の考え方が理解してもらえると考える。
- 木村 会長：学力の向上については、直線的な向上は非現実的であることに配慮する必要がある。
- 板橋 委員：本市の学習内容定着度調査は、全員受けるものか。
- 教育センター所長：通常学級に在籍する児童生徒は全員受けるが、特別支援学級の場合は、特別なカリキュラムを受けているものは受けないこととしている。通常学級在籍児童生徒でも、かがやきルームなどでの個別指導により学力向上を目指している。
- 綱川 委員：今後、活用問題まで含めることとすると、この目標値は達成が難しいと考える。
- 事務局：今後も基礎的・基本的な内容のみの問題で数値を取っていく。
- 菊地 委員：学習指導要領の改訂により内容が増え、中学校では授業時数をどのように実施するかが今後の課題であるとする。今までと学校を取り巻く状況が変わる中で、目標値の設定が過去の数値を基にしてよいのか。
- 綱川 委員：数値のみにこだわらず、思考力や判断力を育むことが大切であるとする。
- 板橋 委員：教員が、単なる数値と認識してしまうことが心配である。
- 木村 会長：「地域学校園」という表現が分からないため、説明を記すとよい。
- 長谷川副会長：メンタルヘルスチェックなどを生かし、異動した教職員へのカウンセラー対応などが必要であるとする。
- 事務局：今後とも工夫し、より多くに対応できるよう考えていく。
- 菊地 委員：外国人児童生徒への母国語支援という視点をもつとよい。
- 事務局：宇都宮市国際交流協会等の関係団体と、今後とも連携していく。
- 板橋 委員：本計画は、児童生徒一人一人への対応を重視している。地域学校園の話し合いの中で、一人一人の情報が欲しいという要望が保護者から出ているが、今後、市として全児童生徒の個人カルテのようなものを作成するようにしていく考えはあるのか。
- 事務局：児童生徒一人一人の学習や生活の状況については、指導要録を作成するとともに通知表等により保護者へ知らせていることにより対応しているとする。

4 その他 到達目標について

- 小野口委員：健康体力の到達目標の文章については、「規則正しい生活習慣」と「健康的な生活」が適しているとする。
- 事務局：「健康的な」は「心身ともに」の意味であるとともに、「よりよく」は指導要領の技術・家庭の目標を受けている。
- また、児童生徒には平易な文章で、学習と生活アンケートの結果から状況を評価することを想定している。
- 板橋 委員：児童生徒に公共性を育むことを強く示したいとする。
- 菊地 委員：模範的な姿の先にある、社会を変えてく元気な児童生徒の姿を本市らしく示せるとよい。また、小中一貫教育実施に当たり、小・中学校間の滑らかな接続のみでなく、緊張の中で身に付けるものもあることから、ゆるやかな段差が望ましいとする。
- 綱川 委員：「地域」という視点も大切であるとする。
- 長谷川委員：「確実に」「誰に対しても」という表現が適切か検討するとよい。
- 伊藤 委員：「思いやり」に加え「感謝」という視点も大切であるとする。
- 木村 会長：多様な意見が出たことから、事務局でよくまとめるとよい。